

【別冊 4】

令和 4 年登米市議会定例会 9 月定期議会 資料

一般会計・特別会計・企業会計
令和 3 年度決算の概要

令和 4 年 9 月 8 日

令和3年度登米市一般会計及び各種会計決算の概要

令和3年度登米市一般会計及び各種会計の決算の概要につきまして、ご説明申し上げます。

国の令和3年度地方財政対策における、地方一般財源総額につきましては、新型コロナウイルスの影響により地方税が大幅な減収となる中、行政サービスを安定的に提供しつつ、防災・減災、国土強靱化などの重要課題に取り組めるよう、地方交付税等の一般財源総額について、前年度比0.5パーセントの減とされ、地方交付税は5.1パーセントの増とされたところであります。歳出面では、少子高齢化や人口減少の進展による社会保障関係経費等の一般行政経費や、近年激甚化している災害への緊急自然災害防止対策経費の増嵩が見込まれる中、地方債残高が依然として高水準で、その償還が財政を圧迫するなど、地方財政を取り巻く環境は厳しい状況にありました。

一方、本市の令和3年度財政における歳入では、地方交付税が、コロナ禍における臨時経済対策に係る費目などが新たに設定されたことから増加となり、また、ふるさと応援寄附金は、NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台となったことなどから大幅な増加となる一方で、歳入の柱である市税収入は、固定資産税や法人市民税などが減少したほか、コロナ禍における支援財源などとしての国庫支出金が大きく減少したことから、大幅な減額となっております。

歳出においては、扶助費や公債費が依然として高水準であることや、公共施設の維持管理費の増嵩、更には、公営企業会計への多額の繰出金などに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策への対応、そして度重なる災害対応などから、依然として財政調整基金を取り崩しての厳しい運営となりました。

このような中、市政運営に当たりましては、「第二次登米市総合計画」に掲げた本市の将来像「あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち とめ」の実現に向けた取組と、これまでに引き続き「人口減少対策」、「産業振興」、「地域医療の充実」、「教育振興」、「健康なまちづくり」、「安全安心に暮らせるまちづくり」、「効率的な行財政運営」の7項目を重点施策と位置付け推進してまいりました。

令和3年度の主な事業といたしましては、これまで継続事業として実施してきた防災情報伝達手段整備事業の完了や、道の駅津山・もくもくランド再生可能エネルギー設備導入事業の完了に加え、市民生活に直結する道路や上下水道などのインフラ整備についても計画的に実施してまいりました。さらに、少子高齢化の進展に伴う介護や福祉、子育て支援対策事業や、これまでに引き続き、本市の魅力を、ウェブサイトやSNSなどを活用し、市内外に向けて情報発信するなど、知名度や認知度の向上につながるシティプロモーション事業や移住定住促進事業についても積極的に取り組んだところであります。

また、新型コロナウイルス感染症への対応では、感染拡大の防止対策を講じるとともに、ワクチン接種体制の確立、市民生活や事業者の経営継続への支援についても迅速に取り組んだところであります。

この結果、繰越分を含めました一般会計の決算規模は、479億円となり、一般会計に特別会計5会計を加えた合計では681億円となりました。

〔一般会計及び特別会計〕

（歳入）

令和2年度からの繰越を含めた歳入決算額は、一般会計で491億6,446万4千円、特別会計5会計で208億7,573万5千円、全会計合計で700億4,019万9千円となりました。

このうち、一般会計における歳入の主要科目について見ますと、市税では法人市民税や固定資産税の減少などから、前年度より9,850万4千円少ない76億5,590万3千円となり、決算額の15.57パーセントを占めております。

地方交付税につきましては、普通交付税の追加交付や特別交付税の増加などから、前年度より8億4,637万3千円多い173億7,682万4千円、決算額の35.34パーセントを占め、国庫支出金は、新型コロナウイルス感染症関連事業に係る補助金の減少などから、前年度より58億8,153万1千円少ない87億777万1千円で構成比17.71パーセント、県支出金は38億8,845万6千円で構成比7.91パーセントとなりました。

市債につきましては、前年度より7億6,330万円少ない33億5,690万円で構成比6.83パーセントとなっております。なお、収入未済額につきましては、一般会計は8億8,538万円で、そのうち3億7,715万7千円が翌年度への繰越事業に係る国県支出金で、3億2,195万5千円が市税の滞納分であります。特別会計における収入未済額は、3億4,983万4千円で、国民健康保険税、後期高齢者医療保険料及び介護保険料の滞納分となっております。

また、不納欠損額は一般会計で2,780万5千円、特別会計で3,126万8千円となりました。

（歳出）

令和2年度からの繰越を含めた歳出決算額は、一般会計で479億3,657万4千円、特別会計5会計で201億7,564万5千円、全会計合計で681億1,221万9千円となりました。

一般会計の歳出決算額のうち、支出額の多い費目を順に見ますと、決算総額に占める割合は、民生費30.51パーセント、総務費12.95パーセント、衛生費11.17パーセントとなり、これら3費目で261億8,740万3千円、全体の54.63パーセントを占めております。また、特別会計の歳出決算額は、国民健康保険特別会計が90億9,353万7千円、後期高齢者医療特別会計が8億3,500万6千円、介護保険特別会計が101億8,830万8千円、土地取得特別会計が2,949万9千円、宅地造成事業特別会計が2,929万5千円となっております。

一般会計及び特別会計5会計の主な事業の実績につきましては、「令和3年度決算に係る主要施策の成果説明書」のとおりであります。

なお、令和4年度への繰越事業は、一般会計で継続費逡次繰越1億2,994万4千円、繰越明許費5億124万3千円となっております。

これらの繰越事業の財源といたしましては、一般会計では、国県支出金などの未収入特定財源5億8,716万5千円、既収入特定財源1,741万4千円、一般財源2,660万8千円となっております。また、不用額につきましては、一般会計で11億5,906万円、特別

会計で3億8,578万9千円となっており、これらについては、事務事業の効率的執行や経費節減による成果があったものと捉えております。

なお、実質収支額につきましては、一般会計で11億8,386万8千円、特別会計で7億9万円となっております。

最後に、基金の状況であります。年度間の財源調整と市財政の健全な運営を図るための財政調整基金、市債償還の財源とするための減債基金、特定目的基金の取り崩しや積み立てなどにより、一般会計及び特別会計を合わせた令和3年度末基金現在高は172億8,306万9千円となりました。

〔公営企業会計〕

（水道事業会計）

令和3年度登米市水道事業は、「登米市地域水道ビジョン」並びに「登米市水道事業経営戦略」に基づき、安全な水道水の安定供給を図るための事業を継続して行いました。

当年度は本市の基幹浄水場である保呂羽浄水場再構築事業について、DBM方式で実施するため事業者選定に係る準備を行いました。また、より強靱な水道を目指し基幹管路の老朽管更新事業を行ったところであります。

経営状況は、経常収益と特別利益の合計額が24億4,477万1千円、そのうち給水収益が20億5,472万7千円となり、前年度より2,941万2千円減少したところであります。

一方、経常費用と特別損失の合計額が24億2,193万4千円となり、当年度純利益は2,283万7千円を計上しております。

資本的収入は3億7,061万5千円であり、資本的支出は建設改良費として管路緊急改善事業等に4億7,877万円、企業債の元金償還金に8億126万4千円となり、総額で12億8,003万4千円となりました。

（下水道事業会計）

令和3年度登米市下水道事業は、地方公営企業法適用後2年目の決算となりました。

公共下水道事業及び特定環境保全公共下水道事業においては、令和5年度の整備完了を目指し汚水管渠築造工事等を行い、特定地域生活排水処理事業では、新たに浄化槽86基を整備し、農業集落排水事業では、処理施設の機械・電気設備更新を行ったところであります。

経営状況は、経常収益と特別利益の合計額が36億4,312万5千円、そのうち下水道使用料が7億4,307万4千円、一般会計繰入金が15億6,322万4千円、長期前受金戻入が13億1,533万4千円となっております。

一方、経常費用と特別損失の合計額が35億2,649万円となり、当年度純利益は1億1,663万5千円を計上しております。

資本的収入は22億4,787万1千円であり、資本的支出は建設改良費として汚水管渠築造事業、雨水排水路築造事業等に9億6,691万8千円、企業債の元金償還金に21億7,272万1千円、基金積立金に3,098万6千円となり、総額で31億7,062万5千円となりました。

(病院事業会計、老人保健施設事業会計)

令和3年度の登米市病院事業は、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、感染症患者等への診療を継続するとともに、地域から必要とされる医療提供に努め、3病院における病床の機能分担と更なる連携強化を図るなど、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築と、「登米市病院事業中長期計画」に掲げる目標の達成による経営改善に取り組みました。

また、基幹型臨床研修病院として初期研修医の採用に向け、臨床研修医募集のホームページの作成、病院見学の受入れなどに積極的に取り組んだ結果、医師臨床研修マッチングに1名が成立しましたが、採用までには至りませんでした。

経営状況は、経常収益は81億6,524万6千円で、入院患者数が減少したものの3病院の機能分担や施設基準・加算取得により一人1日平均収益が向上し、入院収益が増加するとともに、外来患者数が新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた小児科や耳鼻咽喉科のほか、常勤医師の配置による泌尿器科などでの増加とともに、感染症検査の増加に伴い外来収益が増加しました。さらには、感染症対応に係る補助金の増加や退職給付引当金戻入の計上なども加わり、前年度より7億6,630万1千円増加しました。

経常費用は75億9,098万8千円で、常勤職員数の増加や感染症対応に係る手当支給などによる給与費の増加や診療材料などの材料費が増加したほか、原油価格の高騰による燃料費、感染症の検査委託料などの経費が増加したため、前年度より3,373万6千円増加しました。

この結果、経常利益が5億7,425万9千円となり、前年度より7億3,256万5千円改善しました。

また、特別利益及び特別損失が前年度よりそれぞれ減少した結果、当年度純利益が6億1,589万8千円となり、前年度より6億5,355万5千円改善しました。

さらには、当年度資金収支が7億9,348万9千円の黒字となったことから、資金剰余額が5,081万円となり、地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び地方財政法における資金不足が解消しました。

次に、登米市老人保健施設事業は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、入所利用者の在宅復帰に向けた支援強化と、日常生活ケアの充実を図り、在宅強化型(超強化型)の施設基準の取得に努めるとともに、通所利用者へ新たな高齢者向けのレクリエーションを取り入れ、日常生活訓練と介護サービスの充実に努めました。

経営状況は、経常収益は4億5,653万5千円で、短期入所、通所における利用者が前年度より減少したものの、入所及び居宅の利用者が増加したことや、退職給付引当金戻入の計上により前年度より1,269万5千円増加しました。

経常費用は4億7,171万6千円で、職員数の増加により給与費が増加したことから、前年度より677万9千円増加しました。

この結果、経常損失及び当年度純損失が1,518万円となり、前年度より591万6千円改善しましたが、引当金戻入や減価償却費などの非現金収入・支出を除いた当年度資金収支が1,227万7千円の赤字となり、資金剰余額は5,226万2千円となりました。

